

調査報告

史跡上之国館跡のうち勝山館跡～令和4年度発掘調査成果の概要～

6.1 はじめに

勝山館跡は夷王山中腹の標高 70 m～110 m の海成段丘面上に位置しています。館の成立年代は、『福山秘府』に文明 5 年（1473）に八幡宮を造り、館神を祀ったとあることから、15 世紀後半には成立していたと考えられています。その後、上ノ国に檜山番所が置かれた慶長元年（1596）頃に、勝山館の行政府としての機能が檜山番所に移ったことで、館が廃絶されたと考えられています。



図 6.1 勝山館跡

また、夷王山山頂には「夷王山神社」があり、古くは「医王山」・「医王山薬師堂」と呼ばれており、館の廃絶後も館神八幡宮と夷王山神社は崇敬の対象となっていました。

6.2 調査の目的

勝山館跡は、これまで主郭部分を中心に調査されてきましたが、周辺部については、いまだ不明な部分があります。そのため、主郭以外の周辺部における土地利用の把握や、史跡整備による周遊ルートの確立のための基礎資料を得るこ

とを目的として発掘調査を実施しました。

6.3 鶴の池

勝山館跡の西郭には、鶴の池と伝えられる池の跡が存在しています。今年度は、その鶴の池を源流として館の西側を流れている寺の沢に向かう沢状の窪みを横断するように調査区を 3 つ設定しました。



図 6.2 調査区全景

調査では、縄文時代（中期前半）から近現代に堆積した集石を検出しました。また、中世にはこの沢状の地形が沢であったことが確認され、B-Tm 火山灰（946 年降下）より下位の集石からは縄文土器や石器が出土しました。

6.4 礎石建物跡

昨年度の調査で、鶴の池と同じ西郭の平坦面で礎石が確認されていたため、今年度は、昨年度調査区の北東側に調査区を広げました。

調査では、昨年度に確認された礎石につながる礎石を 4 石確認しました。礎石の大きさは約 50cm で、Ko-d 火山灰

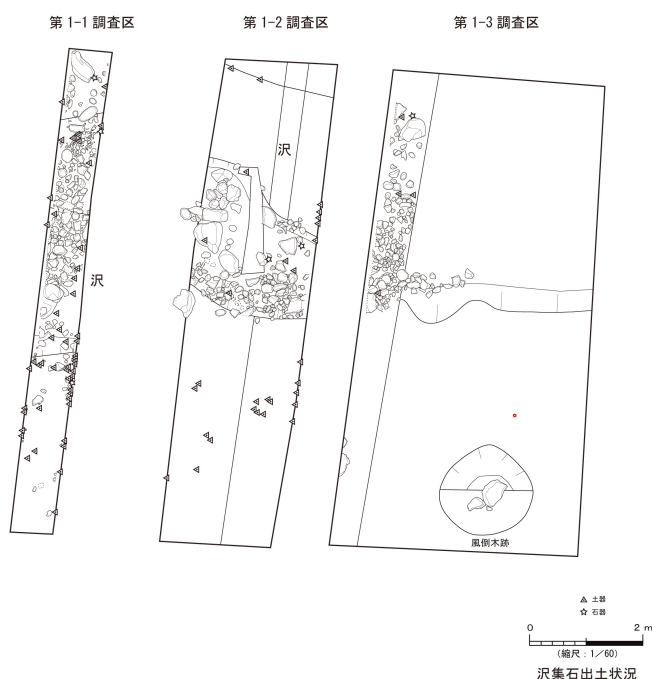


図 6.3 集石出土状況図



図 6.4 鶴の池（写真手前）から延びる沢筋

(1640年降下)の下から見つかっていることから、中世の礎石であることがわかります。建物規模としては、柱間は5.6尺(170cm)と2.6尺(85cm)となり、礎石建物跡になるものと思われます。

6.5 まとめ

これまで、勝山館跡の西郭では鶴の池以外の遺構の存在が不明確でしたが、今年度の調査により建物跡や沢状の地形の詳細が判明し、西郭の性格が少しずつ明らかになって



図 6.5 礎石建物跡

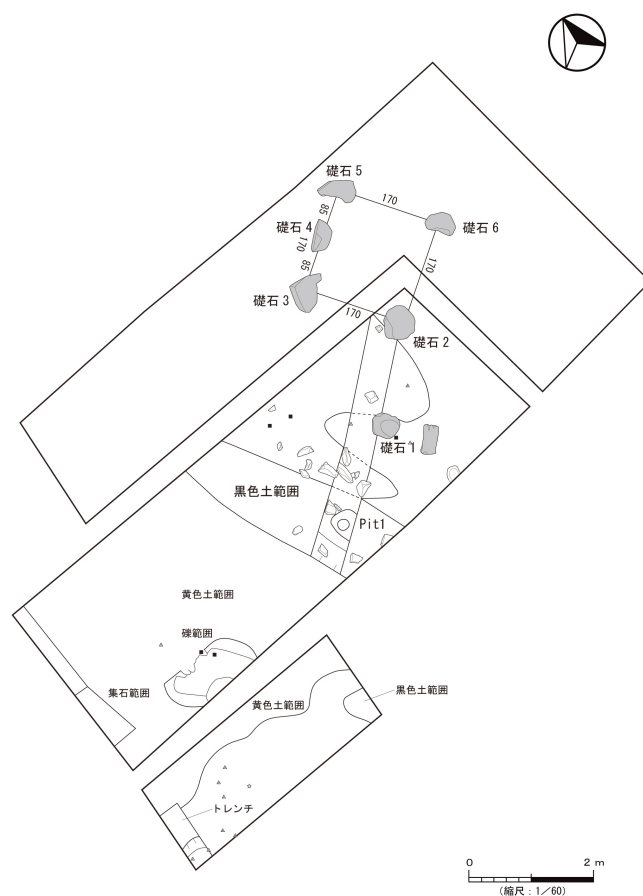


図 6.6 礎石位置図

きました。西郭の性格や鶴の池の年代が解明されることで、勝山館跡全体の構造や土地利用のあり方がより明確になることが期待されます。その成果については、周遊ルートの確立など、今後の整備に活かしていきたいと思います。

佐藤 貢平（上ノ国町教育委員会）